



推薦文の紹介



「精神科医の先生方」

本書によって、私たちは〈よい治療関係とは何か〉という普遍的な問いへの答えが、それぞれの場で臨床と教育実践を行ってきた筆者らの対話とロジャース、エリクソン、ポージェス等の稀代のレジェンドへの深い理解と共通点の汲み出しを経て、〈心〉〈身体〉〈その結び目〉という三つの視点から現代的に精緻化されるのを目の当たりにします。共通要因論を超えて、さらに「治療関係」の精錬が可能であることを読むことで体感させてくれる臨床家への贈りもののような一冊です。

白川美也子／こころとからだ・光の花クリニック

「精神科医の先生方」

「治療関係が、セラピーを有効にするーエリクソン、ロジャース、ポリヴェーガル理論の交響ー」が出版された。私の尊敬すべき臨床催眠の師の一人であり、マインドフルネスの分野でもご活躍の、大谷彰先生と、ポリヴェーガル理論を、優しく、分かりやすく解釈して、複数の書物を通して、日本にポリヴェーガル理論を紹介された、津田真人先生の対談を、大城由敬先生がまとめられました。それぞれの分野から、ポリヴェーガル理論についてお話しをされています。臨床家として、PTSDを含むトラウマ関連障害に於いて、ポリヴェーガル理論に基づいた心理教育・心理療法・精神科治療は必須になってきています。私は、EMDR、SE、TFT、臨床催眠などを行う上で、多くの影響を受けています。背側迷走神経複合体により、不動化しやすい人の治療として、腹側迷走神経複合体をブレンドするために、マインドフルネスを利用したりします。お二人のそれぞれの専門的な立場から、ポリヴェーガル理論という共通の眼鏡を通した、対談をお楽しみください。

仁木啓介／ニキハーティーホスピタル

「精神科医の先生方」

大谷彰先生はアメリカで学び、ミルトン・エリクソンゆかりの人達からその実像に触れ、われわれに分かりやすくエリクソンの真髓を伝えてくれます。津田真人先生は、そのエリクソンのエッセンスを分解し、ポリヴェーガル理論に重ね合わせて、新しい安全の理論の支柱にエリクソンを取り込んで見せてくれます。この2人が対話により、更にエリクソン愛が深まっていく様子が伝わって、読む者をも興奮させてくれます。エリクソンを知らない人には丁度良い入門書となり、ポリヴェーガル理論を深めたい人にはその治療的視点からの知恵が得られることになるでしょう。

長田清／長田クリニック

「心療内科医の先生方」

「全ての心理治療は信頼と共感に満ちた治療関係がなければ効果はあがらない」（大谷彰氏）。「まずいわば『安全』で包んでしまおう」（津田真人氏）。なんと明快なメッセージであろうか。安心安全の神経生理学的メカニズムとはポリヴェーガル理論の腹側迷走神経複合体の機能であり、有効なエリクソニアンやロジャリアンの治療過程には「愛（腹側及び背側の迷走神経複合体のブレンド）」が包摂されていることを明快に示してくれた名著である。

豊田英嗣／日本原病院心療内科

「心療内科医の先生方」

「本書は様々な心理療法の共通要因としての治療関係の意義について、大谷、津田両氏の講演、対談の形式でエリクソン、ロジャーズ、ポリヴェーガル理論の交響の中で論じている。また、三者に共通する西洋の二元論的關係性から東洋の中動的關係性へのパラダイムシフト、さらにはマインドフルネスが認知派と身体派を統合する要であることにも言及しており、心身医療家、心理療法家にとってこの先バイブルとなるであろう革命的書籍である。是非手にとってお読み頂きたい。」

深尾篤嗣／茨木市保健医療センター

「心療内科医の先生方」

お二人の対話を通じて、伝説的な人物であるエリクソンの理解が大いに深まりました。特に印象的だったのは、エリクソンの優れた臨床能力を支える要素として、クライアントのリソースを理解する力があったという点です。「ニュートラルなリソース」についての指摘は、トラウマ治療における「ポジティブなリソース」の持つ問題点を捉えた重要な観点だと感じました。この話題をもとに、リソースや安全・安心に関する有意義な議論がさらに進展することを楽しみにしています。

鈴木裕介／秋葉原内科saveクリニック

「心療内科医の先生方」

誰もが本来持っている治癒システムが働くためには、身心ともに「安全な環境」が基本であり、それはセラピスト自身の存在も安全・安心という場の一部を構成しているということが、ポリヴェーガル理論を通じてよく理解できました。この本に書かれている内容は、心理臨床だけでなく全ての医療現場で役立つ考え方であり、特に心身医学領域では心身相関の理解を深めると同時に、臨床実践にとっても役立つ必読の書として推薦いたします。

竹林直紀／ナチュラル心療内科

「その他の医師の先生方」

おめでとうございます！この本はポリヴェーガル理論のエッセンスがコンパクトに分かりやすくまとまっています。そして、「こころ」と「からだ」、それらの媒介変数となる「自律神経」がどのように安全感とリソースに関係しているのか、ロジャーズ、エリクソン、ポリヴェーガル理論それぞれの立場からしなやかに解説されていることに感動します！

上谷実礼（産業医）／ヒューマンハピネス株式会社

「心理士・師の先生方」

沖縄トラウマケア勉強会の、あの独特の温かく包み込むような雰囲気。そこで繰り広げられる、エリクソン、ロジャーズ、ポージェスという三人の巨匠の理論が織りなす交響は、まさに至福のひとつです。日々の臨床で理論を実践することの難しさに直面する私たちにとって、この本はまるで羅針盤のようです。「治療関係」における新たな視点と深い洞察は、臨床家としての私たちを力強く支えてくれるでしょう。理論と実践の狭間で葛藤するすべての人に、ぜひ手に取っていただきたい必読の書です。

浅井咲子／ART OF THERAPY

「心理士・師の先生方」

大谷彰先生の愛犬シャドーとのエピソードは、先生の温かさと円熟味をいっそう際立たせるように感じられた。エリクソンとロジャーズの論考が難しくとも、その合間に入るエピソードが心地良く緊張と弛緩のバランスをとってくれる。そして津田真人先生のロジャーズという架け橋によって、理論的には距離のあったポリヴェーガル理論を、治療関係という軸で見事に繋いでいただいた。SEの臨床家はエリクソンの臨床知を、エリクソニアンはポリヴェーガルをもっと学びたくなかったに違いない。この架橋の設計図を書いて繋いでくださった大城先生にも感謝したい。最後に投影や逆転移を神経レベルで解説されて胸キュンとなるような臨床家たちに、「ブレンド」という神経系の調節の話がプレゼントのように用意されている。そんな思いやりがギュッと詰まった読み応えある一冊だ。

岡嶋美代／BTCセンター

「心理士・師の先生方」

本書を読むと、読者はさまざまな疑問を持つかもしれない。「ポリヴェーガル理論が臨床に意味があるのはなぜか?」「これほど複雑な自律神経とはいったい何か?」・・・しかし本書の秘めたテーマは別にある。それこそがコンパッションだ。本書は、コンパッションをポリヴェーガル理論とエリクソン臨床という別の視座から見直す手がかりとなるだろう。

富田拓郎／中央大学文学部

「心理士・師の先生方」

本書は、臨床催眠やマインドフルネスの専門家の大谷彰先生，ポリヴェーガル理論の専門家の津田真人先生の講義と対談を収録した，大城由敬先生を中心にした沖縄トラウマケア勉強会が企画したオンラインセミナーの記録です。催眠やマインドフルネス，トラウマケアについて治療関係の重要性を論じながら，ポリヴェーガル理論，安全感，ロジャーズの3原則との関連に話が広がっていきます。エリクソン神話をめぐるお話も興味深いものがあります。博識なお二人の心躍る交響をぜひご堪能ください。

笠井仁／日本催眠医学心理学会理事長

「心理士・師の先生方」

心理療法マニアが、ニヤニヤしながら読める痛快な本です。ポリヴェーガル理論の論客として著名な津田真人先生と、催眠療法、認知療法からマイルドフルネスまで多様な心理療法に造詣の深い大谷彰先生。知の巨匠が相まみえる時、そこには緊張感が生まれがちですが、「沖縄のソマティック・ファンタジスタ」大城由敬先生が「安心・安全」な場を整えたことで生まれた、奇跡のコラボの空気感を肌で感じられます。ぜひご一読下さい！

伊藤義徳／人間環境大学総合心理学部

「心理士・師の先生方」

この本を読んだセラピストの誰もが、自身の臨床実践と結び付けて目から鱗の体験をしたことであろう。私の場合、親子相互交流療法において、親を叩いたり物を投げたりする子の問題行動を「ネガティブなリソース」として捉える視点を得たことにより、その背後にある痛切な「安全への希求」に気づかされた。このネガティブな状態を腹側に基づいた安全な“あそび”へと導くために、親に対してイヤホン越しにコーチングするセラピストは、まさに親の身体に響く言葉、安心感を与える声になるべきことを学んだ。

井上直美／弘前大学・カウンセリングルーム ソイル

「心理士・師の先生方」

津田先生と大谷先生の膨大な知識と情報に圧倒されつつも、表題通り、エリクソン、ロジャース、ポージェスに関する濃い考察を通じて、セラピーにおける治療関係の有効性を再考する良い機会となりました。真の回復の鍵が関係性の中での心と身体の安心・安全感だということが3人の大御所の共通点であることに感動し、基本に立ち返ってセラピーの意義を深く考えさせられる素晴らしい内容でした。

工藤亜佐子／個人開業

「心理士・師の先生方」

本書は、治療関係の土台は安心・安全であり、それは思いやりや尊敬、今あるリソースを認めていく姿勢といった“愛”に近い在り方を含むものだと教えてくれます。腹側迷走神経複合体の働きがその安心・安全を実現していると解説される過程は、膨大な知識の網の目の中で、ピースがつながり、謎が解かれていくかのようでワクワクしました。感嘆し、深く共感しながら読みました。

日高潤子／カウンセリングルーム・フィーレスト

「心理士・師の先生方」

書籍化を望んでいた一人として、セミナーの熱気を思い出しながら本書を拝読しました。前半は大谷氏と津田氏による治療関係に関する論考、後半はM.エリクソンとポリヴェーガル理論を軸にして自在に展開するおふたりの楽しい対談です。クライアントはひとり一人違いますから、心理療法はマニュアル化できません。本書には熟練した臨床家による心理療法のエッセンスが散りばめられています。安心と安全感のある関係づくりに関心をお持ちの対人援助職の方々に本書をお勧めいたします。

田中ひな子／原宿カウンセリングセンター

「心理士・師の先生方」

まひとさんのすごいところ。探求心からくる知識の取り揃えが超一級。なのに、威張らない。それだけじゃなくて謙虚。出し惜しみも骨惜しみもないところ。ユーモアがあって、武闘派じゃないけど、必要な時には、負けない強さがある。カッコイイ。きっとたくさんの方々が、内容に関する紹介文を書かれると思うので、私は、まひとさんという人柄を紹介しました。セミナーにも参加させて頂きましたが、素晴らしかったです。

スージー／SE Japan

「心理士・師の先生方」

ご出版おめでとうございます！

牧野有可里／ソマティック・アプローチ・ジャパン

ご出版おめでとうございます！

服部信子／米国心理療法士